

29 年 8 月 1 日

助成事業実施報告書

団体名 地域生活支援ネットワークサロン

自立援助ホームカムイ

代表者・役職名 氏名 理事 本間 征二



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

心を育てる体験旅行事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

地域の人や各団体とたまり場と言う話し合う機会を多く持ち、その中で必要とされてきた事業だけを積極的に行っている法人です。こどもからお年寄りまで、ニーズに合わせて活動をしています。自立援助ホームカムイも、道東には1つもなかったということもあり始めました。今では、地域と協働しながら、家族やこども達の相談もうけて、一時保護等も積極的に受け入れています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当援助ホームに入居している子ども達の半分以上は、働くまでの気持ちが育っていきなくアルバイトもつけない状況で、ましてや現在は福祉的就労も制度の壁で使えない現状ある。活動(ボランティア)やコミュニケーショントレーニングをすることが多いが、その中で、よく感じるのは、「初めて知った、楽しかった」という言葉が多く、いろいろな必要な経験をしてきていないことがわかった。ホームの住人ミーティングの中で、いつか修学旅行みたいに、みんなで旅行ができたら良いよね。とコースを調べる等、楽しそうに話をしていた、ホームの運営状況や個人負担を考えたら難しさは感じていた。こういう旅行ができることで、諦め感から前向きに、そして、心が育てられればと思います。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

自立援助ホームカムイの利用者と職員が全員で、札幌方面に体験旅行に出かける。カムイの住人のミーティングで、バイキングを食べたい。札幌ドームに行きたいと言う話が多かったので、自由時間も少し取りつつ、1泊2日の札幌方面旅行を実施する。予定等は、住人ミーティングの中で実行委員を選出し全員の意見を取りまとめ進める。日程については、3連休ではあるが、皆の予定がここしか合わないため、7月16日～17日とする。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

参加者は職員4名、利用者9名が参加しました。まず、旅行が決まった後から、子ども達の中の意識が変わり、目的(お金をためる)の為に、少しでも何かをしようと言う気持ちが多くみられました。このようにすぐ近くの目標だと比較的達成しやすいですし、自信にもつながると感じました。旅行に行った後は、次回の話が出たり、自信がついてのか、仕事について、具体的に考える子も1名いました。また、今まで部屋での生活が多かった子も、今回の旅行でコミュニケーションの自信がついたのと、少し周りを信用できるようになったと話し、徐々に活動に参加できるようなきっかけが生まれたような気がします。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の旅行では、楽しかったという子は非常に多かったが、それだけでは終わることなく、ホームでの人間関係や大人との関係も良好になったことも活かして、モチベーションが保てて、今後の生活に前向きになれるような仕掛けを作っていかなければと思います。次回の住人会議の議題として、すでに話にでていたのは、冬の旅行です。今回の旅行をきっかけに、積み立てという話も出ているので、それぞれの子どもが、目標をもてるようにサポートしていければと思います。今回は、初の全体での旅行でしたが、子ども達のいろいろな表情が見れて、職員一同この仕事の魅力や可能性というものも、がっちりと感じ取りました。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし



